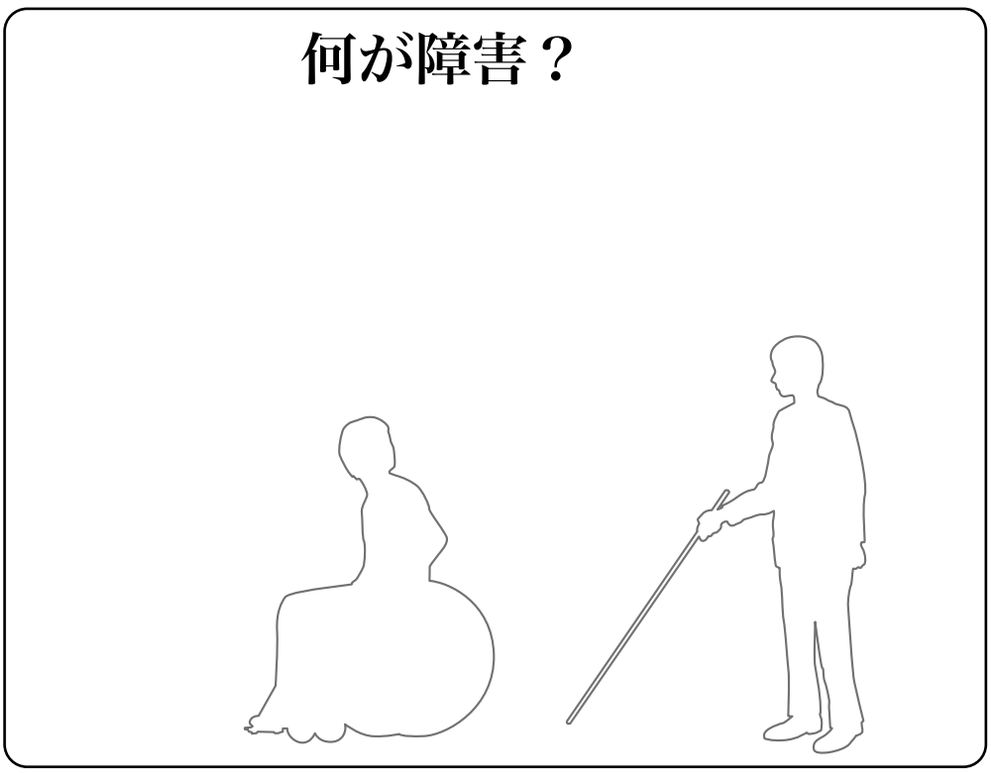
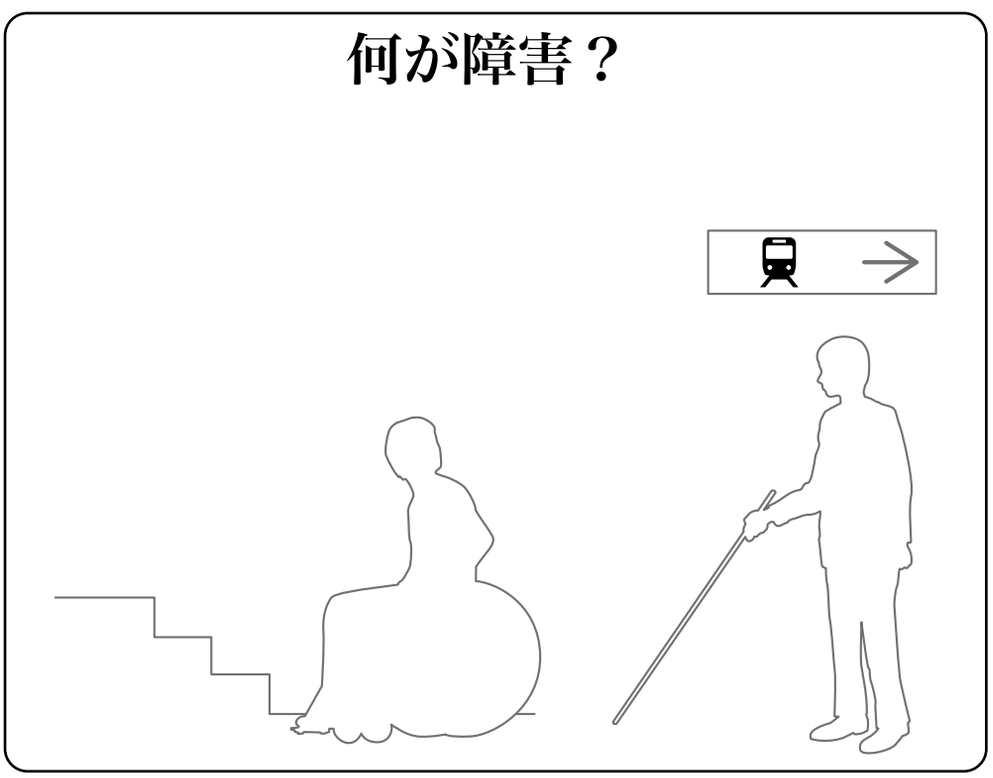
障害の社会モデルとは？

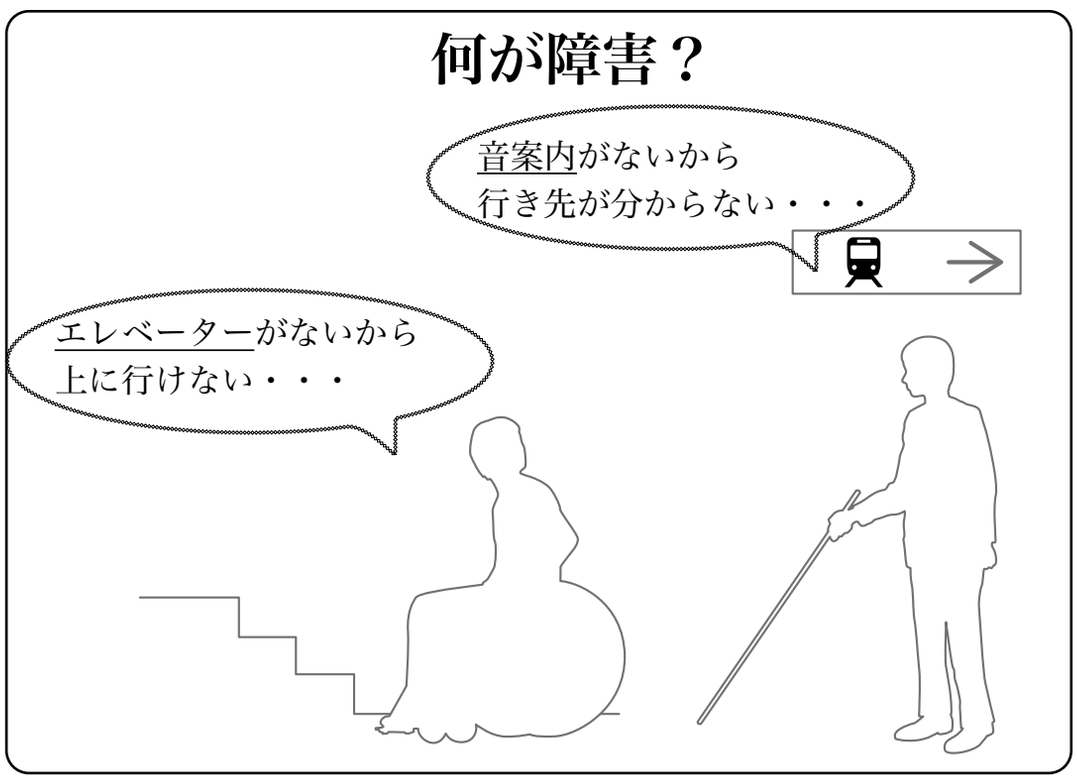
「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である、とする考え方





医学モデル

➡「障害」は病気や外傷等から生じる 個々の問題であり、
平等な社会参加が制約されているのは、もっぱら **機能障害があるから** という視点



社会モデル

➡「障害」は個人の心身機能の障害だけでなく、
社会的障壁の相互作用によって創り出されているものとして、
平等な社会参加が制約されるのは、**社会的障壁も要因になる** という視点

まず、一般的に不特定多数の障害者が使いやすい「環境の整備」（エレベーターを付ける・スロープを付ける等）= 事前的改善措置が行われる。
その上で、それだけでは解決されない個々の障がい問題を解決するために、
<u>合理的配慮</u>が必要になる。

合理的配慮とは？ *(Reasonable accommodation)*

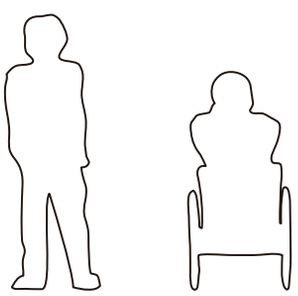
障害のある人が社会生活において平等に参加できるよう、

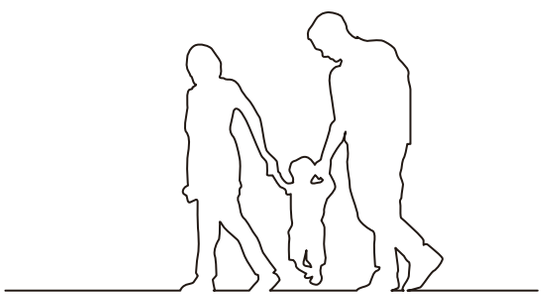
障害の特性や困りごとに合わせて行われる配慮

<u>障害者が他の者との平等を基礎</u>として**<u>全ての人権</u>**及び**<u>基本的自由</u>**を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、**<u>特定の場合において必要とされるもの</u>**であり、かつ、均衡を失した又は**<u>過度の負担を課さない</u>**ものをいう。

（障害者権利条約　第二条　定義）

- ✓ 車いす利用者のために段差に携帯スロープを渡す、高い所に陳列された商品を取って渡すなどの物理的環境への配慮を行う
- ✓ 筆談、読み上げ、手話などによるコミュニケーション、分かりやすい表現を使って説明をするなどの意思疎通の配慮を行う
- ✓ 障害の特性に応じた休憩時間の調整などのルール・慣行の柔軟な変更を行う
- ✓ 資料を拡大文字や点字によって作成したり、資料の内容を読み上げて伝えたりする
- ✓ パソコンなどで読上機能を使えるように資料のテキスト形式データを提供する





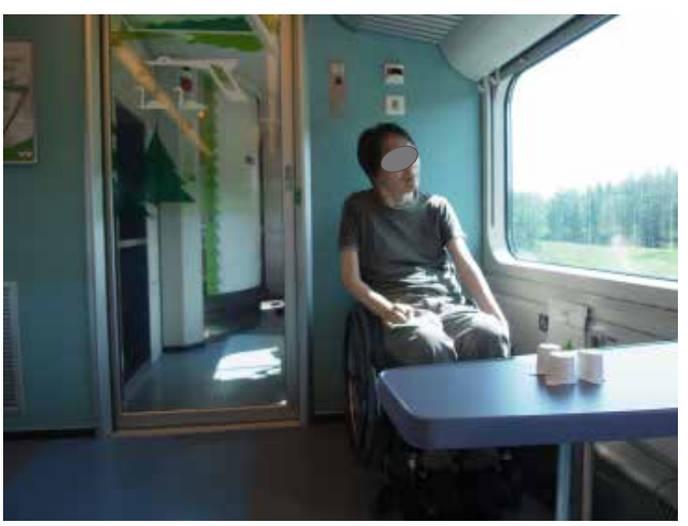
心のバリアフリーとは？

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、

相互に理解を深めるためにコミュニケーションをとり、 支え合うこと

「心のバリアフリー」を体現するためのポイントとして、

（１）障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。

（２）障害のある人（及びその家族）への差別（不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底すること。

（３）自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養うこと。